

令和7年度 社会福祉法人長寿会（全体）事業概要

令和7年度 長寿会全体事業概要

【事業運営】

令和7年度は、各事業とも、利用者確保と経費削減に努力し、近年続いていた赤字決算を大幅に改善した黒字決算となった。物価高騰、最低賃金引上げの社会情勢にあつて、国の経済対策による食費、光熱費の補助金や、職員の賃上げに資する補助金の措置もあり申請した。災害や、感染症による事業への影響はなく、職員の異動も少なかった。施設の入所者が、定員に近い人数になり、次年度以降の安定経営の基盤ができた。

重点目標の「安定経営」については、施設、デイサービスとも、管理者と担当者が毎月会議をもって、対策を協議し進めた。施設は、入所者受け入れを計画的に行い、下半期には、一日当たりの利用者数が目標以上となり、大幅に収入が増えた。デイサービスは、前年度後半の利用者減から始まり、厳しい状態であったが、イベントやアクティビティの充実を図り、取り組みのPRを積極的に行って、下半期から徐々に利用者が増えている。居宅介護支援事業及び市包括サブセンターは、各ケアマネージャーの担当件数が伸びており、例年に比較して大きく収入が増えた。

設備については、デイサービスの老朽化した浴室修理、長年使用した特浴リフトの更新を行った。またデイサービス全館をLED照明に変えた。明るい室内で、快適にサービスが提供できる環境にした。

費用については、工事や備品等の購入は、可能な限りリースを基本とした。今年度は、施設の介護記録ソフト、WI-FI設備、大型洗濯機、ベッド、車両、デイサービスのLED工事をリースで行った。デイサービスのリフト浴については購入費用の約1/2を補助金で補填した。

「生産性向上の取り組みを定着させる」については、業務改善により、職員の負担軽減とケア向上を図ることが目的とされ、施設では、介護ソフトを導入し、成果を上げつつある。生産性向上委員会で課題を検討し、推進している。デイサービスは、ICTコンサルタントを入れ、ICT機器の検討や学習、業務負担の見直しを行った。次年度は職員が引き続いて検討していく。居宅は、いち早くデータ連携システムを取り入れ、業務の効率化を図った。

「働きやすい職場づくり」については、各部署会議を定期的に行い、共通理解を図り業務にあたった。また年間計画に基づき、研修を実施し、チームケア、職員資質の向上を図った。生産性向上の取り組みは、職員の働きやすさに繋がる。各事業とも、業務改善の取り組みを継続していく。

賃金改善については、今年度も、定期昇給、処遇改善加算Ⅰによる手当の増額、一時金の支給を継続した。介護人材確保・職場環境改善等事業補助金は、全て職員へ一時金として支給した。賞与も規程どおり支給した。

職員体制は、離職者が少なく、チームケアと資質向上に繋がっている。欠員していた施設看護職員の補充ができ、11月からは、加算算定が再開できた。

利用者が増えている中、業務負担も大きくなっている。業務改善を進める中で、課題を明らかにして対策を協議し、働きやすく、やりがいのある職場づくりを、職場全体で取り組んでいく。

【決算の概要】

令和7年度の、法人全体のサービス活動収益は 433,744,601 円（前年度 400,999,874 円）で、前年度より 32,744,727 円増えた。

サービス活動費用は 422,586,962 円（前年度 408,464,217 円）で、前年度より 14,122,745 円増えている。

令和7年度は、施設の入所率アップによる増収が大きかった。また、居宅の収入が伸びた。支出は、人件費のほか、給食委託料、利用者増による介護用品等の費用が増えた。また、施設ではリース料が増え、デイサービスでは浴室修繕費、リフト浴更新の費用がかかっている。

当期活動収支差額は 11,769,911 円（前年度△6,714,902 円）となり、前年度まで続いた赤字決算が改善できた。

今後も施設入所者の入所率を維持するとともに、デイサービスの収支を改善して、安定した事業運営ができるよう努めていく。

令和7年度社会福祉充実残高（内部留保）に該当する金額はない。

令和 7 年度 社会福祉法人長寿会（本部）事業報告書

令和7年度 社会福祉法人長寿会（本部）事業報告書

1 法人の概要

主たる事務所の所在地	山口県山陽小野田市大字小野田 11324 番地 10
代表者（理事長）の氏名	長 澤 孝 明
法人の認可年月日及び番号	昭和52年9月28日 厚生省社第803号
設立登記年月日	昭和52年10月13日

2 法人の事業の内容

（令和7年3月31日）

事業の種類	施設の種類	事業開始年月日	定員	職員数
第一種 社会福祉事業	特別養護老人ホーム長寿園	昭和53年4月1日	82人	53(8)人 (医師1含む)
第二種 社会福祉事業	老人短期入所事業	昭和55年4月1日	8人	
	老人デイサービスセンター	昭和59年12月1日	30人	9(1)人
	老人居宅介護等事業	平成2年1月1日 令和2年4月1日廃止		
	老人介護支援センター	平成3年1月1日		
公益事業	居宅介護支援事業 地域包括支援センター事業	(認可年月日) 平成27年12月11日 平成27年12月11日		3人 1人
	介護予防・日常生活支援総合事業	平成29年4月1日		(デイサービス職員)
収益事業	なし			
() 書きは非常勤職員の再掲				66(9)人

介護保険事業者指定の内容

※指定有効期間6年間

事業の区分	事業の種類	定員	初回指定年月日	指定の更新年月日
指定居宅介護支援事業	居宅介護支援		平成12年4月1日	令和2年4月1日
指定居宅サービス事業	通所介護	30人	平成12年4月1日	令和2年4月1日
	短期入所生活介護	8人	平成12年4月1日	令和2年4月1日
	介護予防短期入所生活介護		平成18年4月1日	令和2年4月1日
指定介護保険施設	介護老人福祉施設	82人	平成12年4月1日	令和2年4月1日
指定山陽小野田市総合事業	予防給付型通所介護相当サービス	通所介護を含む	平成30年4月1日	令和6年4月1日

委託事業等の状況

委 託 者	事 業 名
山陽小野田市	緊急時短期入所サービス事業 地域包括支援サブセンター運営事業 要介護認定調査事業 介護予防支援業務
宇 部 市	予防給付ケアマネジメント

3 定款変更の状況

審議日程	申請年月日	認可年月日	変 更 内 容
な し			

4 役員の状況

(年度末 順不同)

	役職名	氏 名	年 齢	当初就任年月日	現就任年月日	任 期
1	理事長	長澤孝明	76	平成 20 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	令和 9 年度の定時評議員 会の終結の時まで
2	理 事	長澤英明	75	令和 3 年 6 月 23 日	令和 7 年 6 月 18 日	
3	〃	西野 彰	85	平成 14 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	
4	〃	白石千代	76	令和元年 6 月 19 日	令和 7 年 6 月 18 日	
5	〃	平原廉清	84	平成 26 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	
6	業務執行 理事	上村篤子	70	平成 24 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	
計		6 人				
1	監 事	田村嘉輝	74	平成 24 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	令和 9 年度の定時評議員 会の終結の時まで
2	〃	岩本良治	67	令和 7 年 6 月 18 日	令和 7 年 6 月 18 日	
計		2 人				
1	評議員	秋本和美	74	平成 20 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	令和 11 年度の定時評議 員会の終結の時まで
2	〃	中島嘉哉	68	平成 22 年 4 月 1 日	令和 7 年 6 月 18 日	
3	〃	内田八重子	69	令和 3 年 6 月 23 日	令和 7 年 6 月 18 日	
4	〃	井上 修	72	令和 3 年 6 月 23 日	令和 7 年 6 月 18 日	
5	〃	渡邊朱美	66	令和 3 年 6 月 18 日	令和 7 年 6 月 18 日	
6	〃	坂本多門	79	令和 7 年 6 月 18 日	令和 7 年 6 月 18 日	
7	〃	林祥太郎	66	令和 7 年 6 月 18 日	令和 7 年 6 月 18 日	
8	〃	三好直子	76	令和 7 年 6 月 18 日	令和 7 年 6 月 18 日	
計		8 人				

5 会議の開催状況

開催年月日	出席者	欠席者	議 題
7.5.28 理事会	理事 6 人 監事 2 人	0 人 0 人	議案第 1 号 令和 6 年度長寿会（本部）事業報告について 議案第 2 号 令和 6 年度長寿会（本部）決算報告について 議案第 3 号 令和 6 年度長寿園（施設）事業報告について 議案第 4 号 令和 6 年度長寿園（施設）決算報告について 議案第 5 号 令和 6 年度デイサービス施設明寿香園事業報告について 議案第 6 号 令和 6 年度デイサービス施設明寿香園決算報告について 議案第 7 号 令和 6 年度居宅介護支援事業報告について 議案第 8 号 令和 6 年度在宅介護支援センター事業報告について 議案第 9 号 令和 6 年度在宅介護支援センター会計（居宅介護支援事業含む）決算報告について 議案第 10 号 理事の推薦について 議案第 11 号 監事の推薦について 議案第 12 号 評議員の推薦について 議案第 13 号 評議員選任・解任委員の選任について その他
7.6.4 評議員選任・解任委員会	委員 4 人	1 人	議案第 1 号～議案第 8 号評議員 秋本和美、中島嘉哉、内田八重子、井上修、渡邊明美、坂本多門 林祥太郎、三好直子
7.6.18 定時評議員会	委員 7 人 監事 2 人 理事 1 人	1 人 0 人	議案第 1 号 令和 6 年度長寿会(全体)事業報告について 議案第 2 号 令和 6 年度長寿会(本部)決算報告について 議案第 3 号 令和 6 年度長寿園(施設)事業報告について 議案第 4 号 令和 6 年度長寿園(施設)決算報告について 議案第 5 号 令和 6 年度デイサービス施設明寿香園事業報告について 議案第 6 号 令和 6 年度デイサービス施設明寿香園決算報告について 議案第 7 号 令和 6 年度居宅介護支援事業報告について 議案第 8 号 令和 5 年度在宅介護支援センター事業報告について 議案第 9 号 令和 5 年度在宅介護支援センター(居宅介護支援事業を含む)決算報告について 議案第 10 号～議案第 15 号理事 長澤孝明、長澤英明、白石千代、西野彰、平原廉清、上村篤子 議案第 16 号・議案第 17 号監事 田村嘉輝、岩本良治 その他
7.6.18 理事会	理事 5 人 監事 2 人	1 人 0 人	議案第 1 号 理事長の選任について 議案第 2 号 業務執行理事の選任について その他

7.11.19 理事会	理事 6 人 監事 2 人	0 人 0 人	議案第 1 号 給与規程の一部改正について 議案第 2 号 デイサービス施設明寿香園第 1 回資金収支補正予算について 令和 7 年度上半期事業報告について その他
8.3.18 理事会	理事 6 人 監事 2 人	0 人 0 人	議案第 1 号 給与規程の一部改正について 議案第 2 号 経理規程の一部改正について 議案第 3 号 令和 8 年度長寿会（本部）事業計画について 議案第 4 号 令和 8 年度長寿会（本部）会計資金収支予算について 議案第 5 号 令和 8 年度長寿園（施設）事業計画について 議案第 6 号 令和 8 年度長寿園（施設）会計資金収支予算について 議案第 7 号 令和 8 年度デイサービス施設明寿香園事業計画について 議案第 8 号 令和 8 年度デイサービス施設明寿香園会計資金収支予算について 議案第 9 号 令和 8 年度居宅介護支援事業計画について 議案第 10 号 令和 8 年度おのだ在宅介護支援センター(居宅介護支援事業)会計資金収支予算について 議案第 11 号 令和 8 年度定時評議員会の開催について 令和 7 年度社会福祉法人長寿会決算見込みについて その他

6 監事監査の状況

監査年月日	監事氏名	指 摘 事 項	改 善 状 況
7.5.19	田村嘉輝 田所 栄	特になし	

7 行政実地指導の状況

監査年月日	指 摘 事 項	改 善 状 況
	なし	

8 登記の状況

登記事項	登記年月日	内 容
1.理事長の登記	令和7年6月26日	理事長 長 澤 孝 明
2.資産の総額	令和7年6月28日	資産額 5億9883万6043円

9 規程の制定、変更の状況

審議年月日	施行日	制定、改正事項の概要内容	
7.11.19	7.10.1適用	給与規程の一部改正	最低賃金の改定による変更 介護職 1時間 1,045～1,800円 看護職 1時間 1,200～2,000円 その他の職員 1時間 1,045～1,800円
8.3.18	8.4.1施行	初任給の格付け基準の改正	1. 事務職 (1)第一表1級14号に格付する (2)第一表1級15号に格付する (3)第一表1級17号に格付する。 2. 生活相談員 (1)第一表1級12号に格付する。 (2)第一表1級13号に格付する。 (3)第一表1級15号に格付する。 3. 介護職 (施設介護職 (1)第一表1級10号に格付する。 (2)第一表1級11号に格付する。 (デイサービス介護職 (1)第一表1級8号に格付する。 (2)第一表1級9号に格付する。 4. 調理員 (削除) 4. 栄養士 (1)第二表1級9号に格付する。 (2)第二表1級11号に格付する。 5. 看護職 (1)第三表1級8号に格付する。 (2)第二表1級7号に格付する。

	〃	経理規程の一部改正	6. 介護支援専門員 (1)第一表 1 級 2 0 号に格付する。 7. 機能訓練指導員 (1)第三表 1 級 7 号に格付する。 随意契約ができる額 1. 工事又は製造の請負 400 万円 2. 食料品・物品等の買い入れ 300 万円 3. 前各号に掲げるもの以外 200 万円
--	---	-----------	---

1.0 資産（土地・建物）の状況 別紙 1 のとおり

1.1 借入金の状況

借入額	借入年月日	年度末借入残額
50,000,000 円	平成 31 年 4 月 1 日	14,972,000 円

1.2 法人による利用者負担額減免の状況

事業の区分	対象者数（人）	減免額（円）
介護老人福祉施設	0	0
短期入所生活介護	1	1,200
通所介護	0	0
訪問介護	0	0
合 計	1	1,200

1 3 寄附金の状況

会計区分	件数	金 額 (円)	備 考
長寿会 (本部)	4	700,000 円	理事長 500,000 円 西野理事 100,000 円 その他 100,000 円

1 4 苦情対応の状況

事業の種類	件数		事業所内 解決件数	備 考
	7年度	6年度		
介護老人福祉施設	1	0	1	・骨折の対応/テレビ・筆談ボードを持ち帰らせた/職員の発言
短期入所生活介護	0	0	0	
通所介護	1	5	1	・食事の席を変えられ、利用中 1 人にされた/職員から嫌がらせを受けた
支援センター／居宅介護	0	0	0	
合 計	2	5	2	

1 5 事故の状況

事業の種類	7年度		6年度 件数	備 考
	件数	保険適用		
介護老人福祉施設	5	0	4	転倒骨折 4 (通院) パルン抜け 1 (通院)
短期入所生活介護	1	0	1	転倒 1 (通院)
通所介護	1	0	3	交通事故 1 (通院 1 人、入院 1 人)
支援センター／居宅介護	0	0	0	
合 計	7	0	8	

※医療機関に受診又は入院した件数

1 6 虐待防止・身体拘束廃止の取り組み

虐待防止委員会の開催	4/17 7/17 11/11 2/19	虐待・身体拘束案件の検討 不適切ケアの検討対策 職場の意識啓発、言葉遣いの注意喚起 研修計画 指針の確認
虐待の芽自己チェック	7月 11月 3月	各自の振り返りを目的
第三者委員の巡回（施設）	7/9 2/12	巡回 利用者・職員から聞き取り
施設内研修	施設 1月 3月	認知症ケア 虐待防止・身体拘束廃止
	デイ 9月 2月 3月	認知症・身体拘束排除・虐待防止

1 7 人材確保・人材育成

○職員の異動の状況

令和8年3月31日

	職種	採用	退職	異動	産休・育休		採用紹介元
					入り	復職	
6月	施設介護職員		1				
6月	施設看護職員	1					
8月			1				
10月	施設看護職員	1					職員
10月	施設介護職員	1					ハローワーク
計		3	2				

○人材育成

各事業とも、年間研修計画に基づき職員研修を実施した。

施設は、外部講師に講義、実技を依頼し、より興味深い学びができた。また研修にグループワークを取り入れ、職員間の意見交換ができた。

デイサービスは、職員が交替で講師を務め、自己研鑽に繋がった。

居宅は、個々の課題に応じた外部研修を積極的に受講した。また毎週実施する居宅会議では、ケース検討や新たな情報の意見交換を行い、資質向上に努めた。

別紙 1

資産（土地・建物）の状況

令和 8 年 3 月 3 1 日

基本 財産	所在地（地番、家屋番号）	地目、用途及び構造	面積 (㎡)	担保提供 の有無	備 考
土地	山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 11324 番 10	宅地 長寿園敷地	6,497.95	無	平成 23 年 6 月中川氏から購入。登記済
	山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 11324 番 16	〃	490.95	〃	〃
	山陽小野田市大字小野田字三番溜井 6111 番 34	宅地 明寿香園敷地	1,193.56	〃	平成 29 年 2 月山陽小野田市から購入。登記済
	山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 11337 番 3	山林 長寿園敷地	5.71	〃	〃
	4 筆		8,188.17		
建物	山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 11324 番 10 (長寿園)	鉄筋コンクリート造陸 屋根平屋建 鉄骨造鋼板葺平屋建	1,701.41	無	昭和 53 年 3 月 17 日新築 平成 30 年 8 月 15 日増築 (ホール 170.61㎡)
	山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 11324 番 10 (長寿園)	鉄筋コンクリート造陸 屋根平屋建 鉄骨造鋼板葺平屋建	1,029.20	無	昭和 57 年 3 月 5 日新築 平成 4 年 12 月 21 日増築 (ショートステイ棟 178.15㎡) 平成 30 年 8 月 30 日増築 (個室特浴等 236.21㎡)
	山陽小野田市大字小野田字三番溜井 6111 番 34 (明寿香園)	鉄筋コンクリート・鉄 骨ルーフィング葺平屋 建	508.20	無	昭和 59 年 11 月 7 日新築 明寿香園 411.80㎡ 平成 2 年 12 月 3 日増築支援 センター96.4㎡ (平成 31 年 4 月 1 日改修工 事完了に伴い、明寿香園訓練 室、更衣室、相談室に使用目 的変更 相談室 (8.68㎡) は明寿香園と共用)
			3,238.81	長寿園 2,730.61㎡ 在宅計 508.2㎡	

別紙 1 -(2)

借地

令和 8 年 3 月 3 1 日現在

所 在 地	地目及 び用途	面 積 (㎡)	土地借用に係る契約・利用権の状況			
			契約年月日	相手先	利用権 登記	借地料 年額 (円)
山陽小野田市大字小野田字西ヶ迫 1321 番 10	宅地 職員駐車場	525.00.	H28.11.20	山陽小野田市	無	253,911
		525.00				253,911

令和7年度 特別養護老人ホーム長寿園事業報告書

令和7年度 特別養護老人ホーム長寿園事業報告

今年度は、前年度までに比べ、利用者の異動が少なかった。

面会は、制限の緩和（日祝日可）を行い、より多くの家族の面会があった。敬老行事では、家族を招待し、利用者と一緒に、祝い、楽しむことができた。家族談話会では、面会やケアに対する意見交換ができ、相互理解が深まった。利用者と家族の交流の機会を多く提供でき、職員と家族とのコミュニケーションが多くなった一年であった。

外部からの来園者が多かったにもかかわらず、感染症については、夏場に、職員にコロナ罹患者が7人、冬場にインフルエンザが、ショートステイ利用者1人と職員2人に罹患したが、利用者に発症はなく、面会制限をすることもなかった。

重点目標の「入所者の実績目標人数を達成する」については、1日平均75.2人、入所率91.8%（前年度1日平均68.8人 入所率83.9%）と、目標値（1日平均75人、入所率91.5%）を上回ることができた。新入園者は27人で、前年度（37人）より10人少なかった。退園者数が18人（昨年度40人）と半減し、入院による在園期間の空白も少なかった。下半期は1日平均人数が、毎月目標値を大きく上回って推移しており、余裕をもって新入園者の受け入れをすることができた。

「ショート月平均5人」については、1日平均4.5人（前年度4.8人）、利用率は57.0%（前年度60.2%）となり、目標が達成できなかった。予定を確認し積極的に受け入れたが、長期利用者の減少や、施設入所者の受け入れを優先して居室を使ったことが要因と思われる。

「入所者の健康を保持する」ため、離床して正しい姿勢で、食事を摂ることを目標に取り組んだ。誤嚥性肺炎による入院は2件で、発熱や嘔吐による入院は3件あり、1年を通して昨年度より、入院者数を減少することができた。介護、看護、医師が連携して、体調変化に速やかに対応し、健康保持に努めた。離床の頻度については課題が残った。

「介護ソフト、業務連携ツールを使いこなす」は、介護記録ソフト Notice の導入を年度初めに行い、定着を図った。スマホでの記録入力に慣れるよう、段階を追って入力項目を広げていき、混乱なく移行できた。使用するうえでの疑問点や課題は、生産性向上委員会でその都度解決し、ほぼ全職種の職員が使用・閲覧できる状況になっている。業務連携ツール（Google カレンダー）を活用しているが、年度途中から Notice に同様の「予定表」ができた為、活用を検討していく。その他、紙記録の見直しについては、今後の課題とし、裏紙を使用するなどして、紙の削減に努めた。

「備品管理を徹底する」については、担当委員会で備品管理を定期的に行った。リース品については、継続の有無、種類変更の必要性等の検討を併せて行った。整理整頓の為、倉庫の片づけに取りかかり、不要物品を廃棄した。

1 施設の概要

名称	特別養護老人ホーム 長寿園
住所	山陽小野田市大字小野田 1 1 3 2 4 番地 1 0
事業開始	昭和 5 3 年 4 月 1 日
サービス種類	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設Ⅱ多床室）7 4 人 （介護老人福祉施設従来型個室）8 人 夜間職員配置 あり サービス提供体制強化 あり 個別機能訓練 あり 看護体制 Ⅰ・Ⅱ あり 配置医師緊急時対応 あり 口腔機能維持管理体制 あり 若年性認知症入所者受入 あり 身体拘束廃止取組 あり 看取り介護体制 あり 介護職員処遇改善Ⅰ あり 科学的介護推進体制（R4.1～） あり ショートステイ 8 人（併設型短期入所生活介護Ⅱ多床室） （併設型介護予防短期入所生活介護Ⅱ多床室） 夜間職員配置 あり 機能訓練指導体制 あり 送迎体制 対応可 サービス提供体制強化 あり 介護職員処遇改善Ⅰ あり
委託事業	緊急時短期入所サービス（山陽小野田市）
建物	鉄筋コンクリート平屋建 2, 7 3 0. 6 1 m² 居室 4 人部屋：1 9 室 2 人部屋：3 室 1 人部屋：8 室 食堂 4 訓練室 浴室（特浴 リフト付き個浴 4） デイルーム ホール

緊急時配置医師加算、看護体制加算Ⅱ、看取り介護加算Ⅱは、年度途中（11 月 1 日～）に要件を満たしたため算定を再開した。

2 サービス提供体制（職員配置）

新規採用は、3人（介護1人 看護2人）、退職は2人（介護1人 看護1人）であった。再雇用職員が2人（介護1人 看護1人）あった。

新規採用の看護職員が、短期間で退職した。

令和7年度末職員人数（人）

園長1	事務長1	事務主任1	事務員2	主任相談員1（介護支援専門員兼務）
生活相談員1	機能訓練指導員1	医師1（非常勤1）	看護職員4	
介護主任1	ユニットリーダー2	ユニットサブリーダー2		
介護職員28（パート4）	栄養士（給食主任）1			
清掃員1（パート1）	洗濯員2	夜間警備員2（非常勤2）		
計52人（パート・非常勤8）（）内書は再掲				

看護・介護職員と利用者の割合（令和7年度年間集計）

	常勤 人	延在籍	非常勤 人		計 人	看護介護 職員合計	看護介護職員 利用者の割合	
		常勤換算		常勤換算				
介護職員	30	28.7	4	1.5	30.2	33.9 (前年度 34.2)	2.4 : 1	
看護職員	5	3.7	0	0	3.7			
年度 利用実績	施設	27,477 人		$\frac{29,143 \text{ 人}}{365 \text{ 日}} = 79.84 \text{ 人}$				
	短期	1,666 人						

3 サービスの実施状況

（1）利用実績

①施設入所

延利用者数は27,477人（前年度25,125人）、入所率91.8%（前年度83.9%）であった。新規入所者27人（前年度37人）のうち、在宅からの入所は4人、うち当園のショートステイを利用したことのある利用者は3人、医療機関からの入所が16人（前年度19人）あった。隣接の障がい者施設からの入所者が2人あった。申し込み待機者は年々少なくなっており、医療機関の退院勧告者、生活保護受給者、介護度の軽い人なども積極的に、柔軟に受け入れた。

退所者は18人(前年度40人)で、施設での死亡退園は3人(前年度23人)、入院での退園(死亡・加療継続)は14人(前年度15人)、介護医療院への転院が1人。介護度改善による自宅退園はなかった。

入院は実人数23人(前年度33人)で、前年度より少なく、延べ日数も732日(前年度916日)と前年度より減少した。

入所者の平均介護度は、3.69(前年度3.72)で、前年度とほぼ変わらなかった。

別表1 施設利用状況

別表2 入退園者の状況

別表3 受診・入院の状況

② 短期入所(ショートステイ)

延べ利用者数は1,666人(前年度1,748人)、1日平均4.5人、利用率は、57.0%(前年度60.2%)で、前年度より減少した。利用者の平均介護度は2.02と前年度の2.50より下がった。介護度の軽い利用者が、短い間隔で利用を繰り返したため、送迎回数(361回)が前年度(339回)より増加した。

別表4 ショートステイ利用状況

(2) サービス内容

【介護】

(重点) 利用者に離床の機会を増やす。食事時の離床により、安全に食事ができ健康に過ごせるように努める。

(1) 離床・姿勢

機能訓練指導員の協力を得ながら、主に昼食時離床を行った。職員の出勤人数により十分な離床が難しい日も多かった。また緩下剤の服用により、離床ができない状況も多かった。

食時前には個々に合ったポジショニングを行った。安楽な姿勢で、安全に食事が摂取できるよう努めた。

利用者個々の状態変化に合わせて、栄養士・看護師と連携しながら食事形態の変更・栄養補助食品の提供等を適宜行い、安全に経口摂取が維持できるよう努めた。

(2) 排便

臥床生活、機能低下により、緩下剤による排便コントロールが必要な利用者が多い。排便時のケアを適切に行い、皮膚トラブルにならないよう努めた。また、排便の有無、量、性状を記録し、気づきを看護師に伝えて、適切な排便コントロールに

繋がるよう努めた。

(3) 入浴

入浴時に全身の皮膚状態の観察を行い、入浴後には個々に合った保湿ケアを行い、皮膚トラブル予防に努めた。また皮膚トラブルの早期発見に努め異常等ある場合は、看護職に報告し適切な処置に繋がった。

(4) 口腔ケア

訪問歯科医と連携し個々の状態に応じた口腔ケアを行った。また必要に応じて、歯科医師に相談を行い治療・指導を受けた。

(6) 業務改善

介護記録ソフト定着に向けて情報の発信に努めた。

介護ソフト導入により、記録業務の削減と、リアルタイム入力による情報の共有がスムーズに行えるようになった。記録に対する負担感の軽減に繋がった。

【給食】

(重点) 利用者個々に合わせた栄養ケアを行い、健康維持に努める。

(1) 栄養管理

他部門と連携を取り、利用者個々に合わせた食事提供に努め、年間栄養摂取状況(別紙)も目標達成できた。

必要に応じて、個々に合わせた栄養補助食品を提供(現在は5割弱程度の利用者に提供)し、食べられるものを探り、健康保持できるように努めた。

個々に合わせた栄養ケアを行えるよう、他部門と連携し、栄養ケアプラン立案・実施に取り組んだ。

(2) 調理

委託業者とこまめに連携をとり、利用者に合わせた食事提供を安定して行うことができた。

行事食についてはボランティア提供の「うなぎのかば焼き」しか行うことが出来なかった為、令和8年度は増やしていける様に計画する。

(3) 災害時対策

非常食の配置場所の確保ができず、備蓄購入が出来なかった為、令和8年度には確実にを行うようにする。

別表5 栄養摂取状況(1人1日当たり)

【看護】

(重点) 看護部門での協議を充実して共通理解を図り、医師、他職種と連携して、入所者の健康を保持する。

(1) 健康管理

在園者 65 人に対し、定期健康診断を計画通り実施し、その結果を速やかに家族宛送付した。

新規入園者 27 人の健康診断は、入所後、長沢病院に通院して行い、体調把握を行った。必要に応じて心疾患の検査を実施した。

入所者の体調変化は、ミーティングや記録、介護からの口頭報告を受け、バイタル測定や目視観察を行い、医師に報告した。早めに協力病院等への受診や検査を行い、必要な治療に繋げた。

医師の定期往診（水・金曜日）、臨時往診時の診療補助を行い、処置や処方の指示を受け対応した。臨時の往診（診察、面談、受診入院紹介、看取り）は 64 件あり、うち休日、時間外対応は 13 件あった。

医療機関への入院は 23 人が 28 件（6 年度 33 人 37 件）で、救急搬送は 4 件（6 年度 4 件）あった。他医療機関（専門科）への受診は、11 診療科に、46 人が延べ 163 件（6 年度 12 診療科に 49 人が延べ 175 件）であった。整形外科 12 人、皮膚科 10 人、精神科 7 人の受診が多かった。

(2) 看取り

退園者 18 人のうち、施設で看取りケアを行ったのは 3 人（6 年度 19 人）であった。7 年度は体調注意者に、医師の面談を行い、病状説明を行った。ご家族の意向により、入院をした利用者が 15 人あり、うち 9 人が病院で死亡されている。6 人は治療継続で退園となった。

(3) 感染対策

マスク、手洗い、消毒、換気の基本的対策を継続し、入所者に感染症の発症はなかった。職員は、8 月～10 月にかけて 7 人がコロナウイルス、1 月～3 月に 2 人がインフルエンザに感染したが、施設内への持ち込みは防がれた。

(4) 褥瘡対策

年間を通しての発症は 6 人であった（6 年度 9 人、2 人持ち込み）。食事摂取量低下による体力低下、臥床により発症しており、除圧、清潔、栄養と処置を行い、治癒まで 20 日間～2 か月を要した。看取り者 1 人は治癒に至らなかった。

委員会では、毎月、発症の恐れがある入所者の確認を行い、予防策の検討と周知を行った。

(5) 医療的ケア

胃瘻造設者は 0 人。在宅酸素使用者 0 人。

尿道カテーテル留置者 1 人（退園）、人工肛門増設者 2 人の管理を行った。

外傷、皮膚疾患の発症が多く、毎日 30 人、50 件程度の処置を行った。

(6) 連携・協働

ナース会議を 6 月から、月 1 回開催し、医師連携、服薬管理、緊急時対応、研修

企画等を協議し、看護師が共通理解を図り業務にあたった。

家族の医療に関する意向を確認する為、入園時、退院時の面談や病状説明、看取り面談に医師が参加し、多職種職員が共通理解をもって健康管理に当たるよう努めた。

介護記録ソフトにより、利用者の食事、排泄等の状態を確認し、ミーティング等で介護職と個々の対応の情報交換を行い、利用者の健康管理に繋げた。

別表3 受診・入院の状況

【機能訓練指導員】

(重点) 利用者の安楽な姿勢（ポジショニング）保持を徹底する。

(1) 個別機能訓練プランの作成

心身機能の維持回復を目指した計画を作成し、モニタリングを行った。

(2) 心身機能維持回復に関わる指導・ケア

利用者の安楽な姿勢保持のため、食事時のポジショニングや離床介助を介護職員と協力して実施した。

脚力の機能維持のための平行棒や散歩、拘縮予防緩和のための可動域訓練を、可能な利用者を対象に行った。

余暇時間の充実のため、離床している利用者に、興味のある塗り絵や脳トレなどのプリントを提供した。不穏な利用者と個別に散歩をする等対応した。

(3) 転倒転落防止にかかる指導・ケア

介護職員と話し合いを重ね、事故防止対策をできる範囲で行った。福祉用具に関して、デモ機（トイレでの立位保持）を試用したが、採用には至らなかった。

【介護支援専門員】

(重点) 利用者の状態変化に伴う速やかなプランの立案、徹底を行う。

要介護認定時期に合わせて、6ヶ月ごとに定期的に行った。ターミナル（看取り）プランについては、家族面会時に説明、同意を得るようにした。新規入所者に対しては、「当面のケアプラン」を作成し、入所時に、家族にケア方針を示した。

【相談員】

(重点) 利用者の情報収集を速やかに行い、円滑なサービス提供につなげる。

(1) 入退園対応・代行手続き

年度当初より『週1人入所』を目標に、情報収集と受入れを行った。入所時の諸手続きや準備するものについて、申込時から丁寧に説明し、家族の不安をできるだけ少なくするように心がけた。

入院者の状態把握をこまめに確認し、速やかに退院できるように、曜日を問わず日程調整した。入院者、入院日数共に、昨年度より減少した。

入所中にADLが改善し、特例入所対象になったケースが1件あり、市への申請代行を行い、利用者家族が困らないように対応した。申し込み時点からの特例入所者はいなかった。

(2) 相談援助・諸手続き代行

入所相談や関係機関からの問合せについて、適切な対応に努めた。

(3) 家族との関係

毎月定期的に、事務文書や連絡文書、本人宛の文書等を送付した。

面会時や、LINE(SNS)を活用し、家族への事務連絡や近況報告等をこまめに行った。

問合せや利用者の個別の状態についての質問には、速やかに現場職員に確認し、返答するよう努めた。

家族談話会を1月の土曜日に実施し、26家族34人の参加があった（前年度27家族35人）。家族から『事前予約なしで面会がしたい』『面会時間が30分では短い』などの意見が聞かれ、次年度の検討課題とした。施設からは、居室棚の整理整頓や衣類の交換などの協力を依頼した。

面会は、日曜祝日を可能にし、感染対策による面会制限の期間が無かったこともあり、年間3,422人で、前年度(2,361人)より、延1,000人以上増加した。

外出は、飲食を伴わない外出を可能にした。花見や気分転換、自宅でひと時を過ごす等の理由で希望する家族が、前年度に比べて多かった。公用車を使う外出はほとんど無く、家族の自家用車、もしくは介護タクシーを使う場合が多かった。

(4) ショートステイ

定期的に利用する利用者には、前月から担当ケアマネに伺いを立て、できるだけ希望通りに利用できるように調整した。また新規利用者もできるだけ受け入れられるように調整した。2か月以上連続して利用した利用者は4人で、うち2人が年度中に入所した。

感染対策として、利用前の検温と体調の聞き取りを継続して行った。ショート利用中に発熱があり、退園後インフルエンザと判明した利用者が1人あったが、他の利用者・職員への感染はなかった。

別表6 面会状況

別表7 外出の状況

【事務】

（重点）情報発信を継続的に行う。

- （１）ホームページの管理を担当し、園内行事や研修などの記事を月１回更新し、積極的な情報発信に努めた。
- （２）物価高騰に対して、広く見積もりを取って検討し、経費削減に努めた。
- （３）洗濯物たたみ、民生委員、小野田地区労働者協会の作業ボランティア受け入れを担当し、連絡調整や受け入れ準備を行った。洗濯物たたみは、ボランティアの人数が少なく、ボランティアと一緒に作業をしたり、ボランティアが来園しない日には職員だけで作業をする等して、現場が困らないように動いた。

別表 ８ ボランティアの来園状況

【主任者会】

（重点）重点目標の進捗状況を把握し、推進、見直す。交流行事を推進する。

（１）主任者会

月１回開催し、園全体の状況把握と共通認識、協議検討を行った。

（２）職員の研修計画

①施設外研修

目的をもって現場職員が受講できるようにした。WEB研修も積極的に活用し、情報収集、職員の資質向上に役立てた。

②施設内研修

年間計画に沿って、必要な内容を検討し、計画・実施した。昨年同様、WEB研修を活用した。

外部講師による研修を実施し、専門分野の最新情報を得ることができた（褥瘡予防、感染症）。

介護労働安定センターの相談事業を受け、職員のストレスマネジメントの講師派遣を依頼した。グループワークを取り入れた研修で、職員の意見交換ができた。

③新任研修

入職時の机上研修と現場OJTを行った。講師（職員）の都合上、すぐに実施できない講義もあったが、できるだけ早く受講できるようにスケジュールを調整した。

（３）行事の企画実施

園全体で９月に敬老会を実施した。家族に案内し、午前のお祝い会、午後からのお楽しみ会を、利用者と一緒に楽しまれ、盛況だった。

誕生会を毎月実施したが、個別外出や季節の行事を企画実施することはできなかった。

(4) 実習・施設見学受け入れ

介護、相談の実習を受け入れた。施設見学の依頼はなかった。

別表 9 施設外研修の参加状況

別表 10 施設内研修（現任）の実施状況

別表 11 新人職員研修の実施状況

別表 12 実習・施設見学の受け入れ状況

【委員会活動】

(1) 看取りケア委員会

『気づきシート』の様式を見直し、改訂版を作成した。シートの内容を参考にし、医師に上申する仕組みを整えた。Notice を活用することによって、集計が容易になり、職員の負担が減少した。家族への病状説明の際も、Notice を活用することができた。

(2) 褥瘡委員会

毎月の褥瘡発生状況を確認し、発生予防の注意喚起を行った。マットレスの管理を行い、リスクに応じたマットレスへの交換を行った。体位変換ポジショニングの自主研修、新任職員指導を行った。

(3) 事故防止委員会

毎月、事故の集計を行い、年間76件の事故記録が上がった。「皮下出血・外傷」が一番多く、「転倒・滑り落ちによる骨折」が数件発生した。事故による入院治療はなかった。原因不明の骨折や打撲もあったが、日々の記録から、発生時期や事故原因を推察することができたケースもあった。

研修では、誤薬事故防止、移乗時の危険予知訓練等、日々の業務に密接な内容を企画実施した。

(4) 感染症委員会

食中毒、感染症の研修を行い、マニュアル整備を行った。コロナウイルス発生時の対応マニュアルを新たに作成した。

(5) 生産性向上委員会

介護記録ソフト Notice の運用を開始した。スマホでの入力に抵抗を感じる職員はほとんどなく、入力された情報が増えてきている。

導入効果としては、食事や排泄などの重要な記録は瞬時に記録することができるようになり、他の職員との情報共有に役立った。さらに他科受診の際、経過を説明したり、家族面会時や病状説明時に、食事摂取量の推移や、気になる状態の説明を速やかに行うことができた。普段の何気ないスナップ写真や動画もその場で見せることができ、家族から高評価の声を聞くことができた。年度末には、職員へアンケートを実施

し、記録時間の軽減、記録を探す労力の軽減、情報共有が容易との評価があり、業務負担の軽減になっている。

現在すべての機能を活用できていないので、次年度の課題として、継続的に取り組んでいく。

別表 1 3 職員会議の実施状況

別表 1 4 委員会の活動状況

4 安全・防災対策・環境衛生の状況

(1) 清潔

日常業務の中で、手洗い、清掃、器具の衛生的な取り扱いを行った。エアコンフィルター清掃は、年 2 回（5 月 11 月）業者に依頼している。ベッド周囲、収納タンス、車いすの清掃、カーテンの洗濯の実施については、計画的にできなかった。

換気は一年を通して園内放送で呼びかけを行い、日に 2 回実施した。寝具は、マットレスの消毒クリーニング、個人毛布等の洗濯、シーツ類の定期交換を行い、清潔に使用できるようにした。

園内の整理整頓について、ベッドは事故防止委員会、マットレスは褥瘡委員会の管理とした。101 号室、あすなろ倉庫の整理整頓を行い、年度末に粗大ごみとして業者に収集を依頼した。備品の保管場所が少なく、スペース確保が課題である。

(2) 安全対策

防災訓練及び業者委託の点検・消毒は、下記のとおり実施した。

防災 訓練	日中想定消防訓練	—	0 回
	夜間想定消防訓練	5/14 7/24 2/26	3 回
	地震想定防災訓練	9/17	1 回
	消防設備の説明(消火器・消火栓の取扱)	5/14 7/24 2/26	3 回
新任職員対象 消火設備の取り扱い等の研修		防災訓練時	

設備 点検	消防設備の点検	2 回	藤中ポンプ店
	電気設備の点検	6 回	中国電気保安協会

害虫駆除	調理室ゴキブリ駆除	12 回	山口県薬
	園内ゴキブリ駆除	2 回	山口県薬 5/9 10/29
	建物周囲害虫駆除	1 回	山口県薬 5/13
	園内床磨き	2 日	白清社 9/3 9/4
大掃除	ダニ駆除	4 日	山口県薬 6/24～27

(3) 快適な環境づくり

省エネに留意しながら、利用者が快適に過ごせる室温設定に努めた。扉や水道の不具合は速やかに修理した。

5 入所申込者の状況

入所検討委員会は7月と1月に開催し、検討結果を速やかに申込者に通知した。営業会議を隔週1回実施し、入園者の速やかな受け入れを協議した。

申込みの問合せ時から、可能な限り入所予定時期を申込者に伝えるとともに、面会や情報収集を速やかに行い、現場へ周知徹底して、適時入所できるよう努めた。

退院勧告や退院期限間近な申込者の場合は、優先的に入所につなげた。今年度新規申込者数44人の内25人が、入所した。

委員会開催日	既申込者	新申込者	検討者 (入所待機)	備考
令和7年7月31日	2人	4人	6人	通算44回
令和8年1月29日	1人	7人	8人	

6 利用者の状況 令和8年3月31日現在 80人 (R7年3/31: 70人)

別表15 年齢別状況

別表16 在園期間の状況

別表17 日常生活動作の状況

別表1

施設利用状況

令和7年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比		
定員入所	定員	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	82	定員延人数	
	日数	30	31	30	31	31	30	30	31	30	31	28	31	365	29,930		
	利用日数	介護 1	90	93	90	93	93	90	90	93	90	93	84	93	1,095	4.0%	
		介護 2	120	124	120	124	124	120	120	124	120	124	84	124	1,432	5.2%	
		介護 3	554	571	630	657	670	601	620	610	697	683	623	702	7,618	27.7%	
		介護 4	871	983	965	1,053	1,038	999	1,043	1,021	1,101	1,048	922	985	12,029	43.8%	
		介護 5	386	428	390	387	403	420	483	504	460	465	450	527	5,303	19.3%	
	延人数合計	2,021	2,199	2,195	2,314	2,328	2,230	2,363	2,345	2,475	2,413	2,163	2,431	27,477	100%		
	1日平均人数	67.3	70.9	73.1	74.6	75.0	74.3	76.2	78.1	79.8	77.8	77.2	78.4	75.2			
	入所率(%)	82.1	86.5	89.2	91.0	91.5	90.6	92.9	95.3	97.3	94.9	94.2	95.6	91.8			
	入院人数	7	4	6	5	4	5	2	2	1	4	3	2	15			
	日数	153	111	109	89	51	61	46	34	5	42	33	36	770			
	内加算対象日数	29	111	16	3	10	20	12	5	5	18	13	5	247			
	内加算無日数	124	0	93	86	41	41	34	29	0	24	20	31	523			
	外泊人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
入所人数	5	6	0	4	0	3	2	2	2	0	0	1	2	27			
初期加算日数	181	94	83	99	39	45	67	44	70	14	12	67	815				
退所人数	3	1	1	2	3	1	0	0	2	1	2	1	1	18			
看取加算人数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	5			
日数	1	0	0	0	0	45	0	0	0	26	10	0	0	82			
実人数	介護 1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.1%	
	介護 2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.1%	
	介護 3	21	22	22	24	22	22	21	22	23	23	23	23	30	30.9%		
	介護 4	33	35	35	36	36	34	35	35	36	34	33	32	39	40.2%		
	介護 5	14	14	13	13	13	15	16	17	15	16	17	18	21	21.6%		
合計	75	78	77	80	78	78	79	79	81	81	80	79	80	97			
平均介護度	3.68	3.68	3.66	3.65	3.67	3.69	3.72	3.73	3.69	3.70	3.73	3.73	3.73	3.69			

利用状況集計

別表2

入退園者の状況

令和7年度

		男	女	計	前年	要支援	介護度					計	
							1	2	3	4	5		
入園	入園前の状況	在宅（ショート含む） うち当園ショート利用歴あり	0	4	4	7	0	0	0	2	2	0	4
		病院（精神科含む）	0	3	3	4	0	0	0	1	2	0	3
		老健	5	11	16	19	0	0	0	7	5	4	16
		養護老人ホーム	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
		グループホーム	0	2	2	4	0	0	0	1	1	0	2
		有料老人ホーム	0	2	2	2	0	0	0	0	1	1	2
		その他（障害者施設）	1	1	2	1	0	0	0	0	2	0	2
		特養	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1
		計	7	20	27	37	0	0	0	10	12	5	27
		退園	理由	死亡	0	3	3	23	0	0	0	0	2
施設外	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院	4			10	14	15	0	0	0	6	6	2	14
自宅（介護3→1）	0			0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院（前年『本人希望』）	0			1	1	1	0	0	0	0	0	1	1
計	4			14	18	40	0	0	0	6	8	4	18

別表3

令和 7 年度

令和7年度

受診・入院の状況

	他科受診																入院		
	歯科	精神科	外科	内科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	眼科	脳神経外科	消化器内科	婦人科	循環器内科	脳神経内科	耳鼻科	形成外科	人	日	理由・症状	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人				
4月	46	4	0	0	4	3	2	0	0	0	0	0	3	1	0	0	8	153	肺炎他
5月	52	3	0	1	1	2	2	1	0	0	0	0	4	1	1	1	4	111	嘔吐他
6月	58	2	0	0	3	3	2	0	1	0	0	0	2	1	0	0	6	109	肺炎他
7月	57	4	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6	89	加療他
8月	56	3	2	3	2	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	4	51	発熱、嘔吐他
9月	55	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	5	61	発熱他
10月	56	2	0	0	5	5	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	2	46	発熱
11月	57	2	1	0	4	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	34	ステント交換他
12月	59	1	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	5	加療のため
1月	56	1	1	0	5	3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4	42	肺炎、帯状疱疹他
2月	50	2	2	0	5	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	33	脱水、摂食不良他
3月	55	2	0	0	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	36	加療他
計	657	28	7	4	41	31	9	7	1	0	0	0	28	5	1	1	48	770	←入退院日を含まない
実人数	92	7	2	4	10	12	3	5	1	0	0	0	18	1	1	1	23		
R6実人数	83	4	2	12	9	6	5	4	0	1	3	16	2	2	0	0	33	916	R6年度入院日数:916

別表4

令和7年度

ショートステイ利用状況

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計		構成比
		30 日		31 日		30 日		31 日		31 日		30 日		31 日		30 日		31 日		31 日		28 日		31 日		365 日		
		実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	
予 防 介 護		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0.4%
介 護	介護 1	3	49	4	53	5	52	5	50	4	53	6	49	6	32	3	16	5	28	7	45	6	41	4	40	15	508	30.5%
	介護 2	4	57	3	72	3	62	4	73	3	70	3	41	3	42	4	58	2	27	1	26	1	24	2	39	5	591	35.5%
護	介護 3	3	30	2	33	3	24	2	48	2	43	3	46	3	49	2	35	3	28	2	20	2	31	2	32	5	419	25.2%
	介護 4	3	57	3	24	1	3	2	6	1	4	1	3	1	3	1	3	1	5	1	4	1	4	1	5	4	121	7.3%
	介護 5	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0.2%
	小 計 (A)	13	193	13	186	12	141	13	177	11	172	14	144	13	126	10	112	11	88	11	95	10	100	9	116	31	1,650	
30日超 (B)		2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5	16	1.0%
合 計(A)+(B)		15	195	15	188	14	143	16	180	13	174	16	146	14	127	10	112	11	88	11	95	11	101	10	117		1,666	100%
平均介護度		2.46		2.54		2.00		2.08		1.82		1.79		1.92		2.10		2.00		1.73		1.80		2.00		2.02		2.02
1日平均人数		6.5		6.0		4.7		5.8		5.6		4.8		4.0		3.7		2.8		3.0		3.6		3.7		4.5		定員8人
利 用 率 (%)		81.2		75.8		59.5		72.5		70.1		60.8		51.2		46.6		35.4		38.3		45.0		47.1		57.0		
送迎加算回数		30		30		23		33		24		31		35		28		35		27		33		32		361		30.1

事務一般／介護保険実績集計／施設状況

合計実人数は期間中の人数

平均介護度は、実人数による

令和6年度年間実人数	45名
令和6年度平均介護度	2.50

別表5

特別養護老人ホーム 長寿園

令和7年度

栄養摂取状況(1人1日当り)

	エネルギー kcal	たん白質g	脂肪g	カルシウムmg	鉄mg	V. B1 mg	V. B2 mg	V. C mg	食塩相当量 g	穀類エネルギー 総エネルギー	動物たん白質 総たん白質 ×100(%)
4月	1,745	72.2	52.7	723	8.6	1.49	1.20	129	7.37	56.3	54.2
5月	1,762	71.4	55.8	686	8.5	1.50	1.26	111	7.34	55.3	53.9
6月	1,752	71.1	53.4	717	8.9	1.37	1.19	119	7.44	56.3	53.6
7月	1,744	70.6	53.4	689	8.1	1.34	1.23	123	7.24	56.3	53.2
8月	1,781	72.8	55.0	739	8.7	1.63	1.24	132	7.39	55.9	53.8
9月	1,754	70.4	52.0	720	8.0	1.47	1.20	118	7.48	57.3	52.8
10月	1,731	69.9	51.7	701	8.3	1.43	1.19	120	7.47	57.0	53.5
11月	1,749	71.3	53.0	706	7.9	1.62	1.14	116	7.43	56.4	53.3
12月	1,726	69.7	51.2	740	8.4	1.43	1.14	124	7.43	57.2	52.1
1月	1,744	71.9	52.5	717	8.4	1.49	1.29	114	7.61	56.4	53.3
2月	1,759	71.0	51.9	693	8.0	1.42	1.14	127	7.39	57.3	51.6
3月	1,743	69.7	51.6	719	8.2	1.43	1.17	126	7.49	57.3	51.6
合計	20,990	852.0	634.2	8,550	99.8	17.62	14.39	1459	89.08	678.9	637.0
平均	1,749	71.0	52.9	713	8.3	1.47	1.20	122	7.42	56.6	53.1
目標値	1,500	60.0	40.0	600	7.0	1.00	1.10	100	7.20	48.0	50.0
目標値に対する比較%	116.6	118.3	132.1	118.8	118.8	146.8	109.0	121.6	103.1	117.9	106.2

別表6

面会状況

令和7年度

	延べ人数(人)	前年度
4月	235	147
5月	284	215
6月	239	230
7月	356	213
8月	400	221
9月	215	195
10月	264	299
11月	290	241
12月	313	206
1月	311	42
2月	249	128
3月	266	224
計	3,422	2,361

別表7

外出の状況

令和7年度

月	外 出		行き先 場所・理由など
	実人数	延日数	
4	0 人	0 日	
5	5	7	(病院 家族面会) (斎場 顔合わせ) (宇部空港 バラ見) (自宅 気分転換、面会) (自宅 法事)
6	1	1	(眼鏡市場 本人家族希望)
7	6	6	(斎場 葬儀) (病院 受診) (自宅 気分転換、面会) (自宅 法事)
8	2	3	(自宅 気分転換、面会) (娘宅 気分転換)
9	0	0	
10	2	2	(ゆめタウン宇部 買い物) (自宅 気分転換、面会)
11	2	2	(自宅 法事) (娘宅 誕生日の為気分転換)
12	2	2	(自宅 面会、思い出作り) (洋服の青山 買い物)
1	3	3	(自宅 思い出作り) (神社 初詣) (病院 家族面会)
2	0	0	
3	2	2	(自宅 気分転換、面会) (竜王山 花見)
計	14	28	R6年度 実人数5人 延べ日数8日

別表8

ボランティアの来園状況

令和7年度

ボランティア名		来園回数	延人数
団 体	SDG	21	42
	寿美令会	21	70
	チロリの会	21	77
	柴田さん	13	13
	岩本さん	33	33
	竹中さん	27	27
	田中さん	12	12
	民生委員(ガラス拭き)	9	53
	地区労働福祉協議会	2	118
合 計		159	445
令和6年度		142	342

施設外研修の参加状況

別表9

令和7年度

研 修 名	日 程	期間 (日間)	場 所	園 長	事 務 長	事 務 員	相 談 員	介 護 職	管 理 職
山口県労働セミナー(第2回)ハラスメント対策	7/11	1	宇部市		1				
山口県労働セミナー(第3回)求人・採用戦略	9/8	1	宇部市		1				
令和7年度 総会(第1回)・運営研修会【県老施協】	5/13	1	山口市	1					
令和7年度 介護技術研修会	6/19,7/17,8/2 1,9/18	4	山口市					1	
令和7年度認知症介護実践リーダー研修	7/11・25・8/1・ 6・7・25・10/6	7	山口市					1	
第1回雇用管理セミナー「職場のメンタルヘルス対策」	8/29	1	山口市	1					
第53回(令和7年度)山口県老人福祉施設相互研修会	6/28	1	山口市	1		1	1		
令和7年度介護テクノロジー定着セミナー	7/11～7/22	1	オンデマンド	1					
令和7年度 第1回総会及び社会福祉法人経営力向上セミナー	7/7	1	山口市	1					
令和7年度 第1回在宅医療・介護連携推進研修会 災害時の備えを 多職種で考える	7/24	1	ZOOM				1		
令和7年度 短期専門講習 最後まで自分らしくをかなえる見取りケア	9/18	1	山口市				1	1	1
地域包括ケアシステムに目途はたったのか、老施協・介専協・訪介 協・デイ協合同セミナー	10/17以降	1	ZOOM	1					
令和7年度福祉施設感染対策研修会	11/18	1	宇部市					2	
介護事業所におけるDXの推進	10/20	1	山口市	1					
令和7年度短期専門講習 緊急時の介護	10/24	1	山口市					1	
高齢者保健福祉施設向け感染対策研修	11/8	1	山口市						1
改正女性活躍推進法・ハラスメント対策等説明会	1/15～	1	ZOOM		1				
令和7年度 第2回総会及び社会福祉法人経営力向上セミナー	3/5	1	山口市	1					
老施協 令和7年度 総会(第2回)・施設長研修会	3/19	1	山口市	1					
令和7年度 福祉施設感染対策研修会	1/8～2/27	1	ZOOM				1		
介専協 令和7年度 職場環境におけるハラスメント問題	3/19	1	市内				1		
令和7年度山口県デイサービスセンター協議会総会時研修Ⅱ(自分を 導き、仲間を育てる!現場で生きるリーダーの力	3/25～4/8	1	ZOOM	1					
社会福祉法人の連携による「地域公益活動」研修会	3/16	1	市内	1					
令和7年度カスタマーハラスメント対策研修	3/23～6/30	1	ZOOM	1					
全国老施協・令和7年度経営戦略セミナー(第一弾)	2/27～8/31	1	ZOOM	1		1			
* 実人数・・・ 17 人(R6年度14人)	延人数		31	13	3	2	5	6	2

別表10

施設内研修(現任)の実施状況

令和7年度

実施日	テーマ	講師	参加職種					参加人数
			介護	看護	相談	給食	事務	
4月	全体会議(今年度の事業計画、心得等)	園長 主任者会	●	●	●	●	●	42
5月	食中毒(感染症、初期対応 実技)	感染症対策 委員会	●	●	●	●	●	42
6月	事故防止(ヒヤリハット、事故防止について)	事故防止委 員会	●	●	●	●	●	WEB
7月	褥瘡(圧の可視化、圧抜きの大切さ: 実技)	外部講師 モルテン 伴之木大輔	●	●	●			22
8月	ストレスマネジメント チームワークアップのコミュニケーション	外部講師 NPO法人コネクト ワシ藤本真樹	●	●	●	●	●	27
9月	ノロ・インフルエンザ(予防と対策)	外部講師 感染管理認 定看護師 梅野伊都美	●	●	●	●	●	23
11月	身体拘束廃止と高齢者虐待防止について(ユニット利用者の現状と対策)	虐待防止委 員会	●	●	WEB	WEB	WEB	40
12月	医療的ケア(緊急時・夜間オンコール) 状態観察に役立つ基礎知識	看護師	●	●	●			44
1月	認知症ケアに関する研修	WEB研修	●	●	●	●	●	42
2月	事故防止(誤嚥・骨粗鬆症・骨折リスク について考える)	事故防止委 員会	●	●	●	●		24
3月	拘束・虐待(虐待、拘束の適正化について考える)	主任者会	●	●	●	●	●	資料閲覧 46

別表11

新入職員研修の実施状況

令和7年度

内容	職種	時期	人	担当
職務心得・虐待他	全職種	採用直後	3	園長
採用に関わる書類等	全職種	採用直後	3	事務長
接遇・利用者理解	全職種	採用直後	3	相談主任
感染症予防対策	全職種	採用直後	3	介護主任(感染症委員会リーダー)
事故防止対策	全職種	採用直後	3	介護主任(事故防止委員会リーダー)
介護業務	全職種	採用直後	3	介護主任
褥瘡について	全職種	採用直後	3	介護主任(褥瘡委員会リーダー)
ケアプラン	介護・看護	夜勤業務が1人でできるようになった後	0	介護支援専門員(対象者1名のみ)
介護業務(移動)	介護	OJTにて、実施		
介護業務(食事)	介護			
介護業務(入浴・整容)	介護			
介護業務(排泄)	介護			
介護業務(記録)	介護			
看護業務・死生観	全職種	採用直後	3	看護師
給食業務 (給食:食種やトロミ剤、自具について)	全職種	採用直後	3	給食主任

* 令和7年度中の新規採用実人数:3人(介護:1 看護:2)

別表12

実習・施設見学の受け入れ状況

令和7年度

《実習》

学校・施設名	期間	日数(日)	人数(人)
下関福祉専門学校 介護実習(2段階)	9月16日 ~ 10月22日	27	2
下関福祉専門学校 介護実習(1段階)	11月10日 ~ 11月21日	10	2
山口県立大学 ソーシャルワーク実習 I	2月16日 ~ 2月26日	8	1
山口県立大学 ソーシャルワーク実習 I	3月2日 ~ 3月11日	8	1
YIC看護福祉専門学校 実務者研修	3月27日	1	1
5 回		54	7
令和 6 年度 5 回		59	5

《見学》

0 回 (申し込みによる見学を除く)		0	0
令和 6 年度 0 回		0	0

職員会議の実施状況

令和7年度

会議の名称	回数	参加者	協議内容
主任者会	12	介護主任 給食主任 主任生活相談員 事務主任 看護主任(園長)	事業内容の進捗状況確認 業務内容の確認(各部署からの報告) 園内研修計画及び、進捗状況について 園の運営について 行事、苦情等について
介護リーダー会	8	介護職主任 ユニットリーダー	園内研修について 業務内容、時間の見直し 利用者個別ケアについて
看護職会議	10	看護師 園長	服薬管理、往診、介護連携 緊急時対応、オンコールマニュアルについて 事業報告・計画 情報共有
ケアカンファレンス	21	ユニットリーダー 栄養士 生活相談員 機能訓練指導員 介護支援専門員	ケアプランの策定、見直し のべ153人検討

委員会の活動状況

令和7年度

委員会の名称	会議回数(回)	活動内容
生産性向上委員会	5	・看護、介護情報共有の方法について 課題整理 ・Notice記録について 定着化の方法 効果検証 ・介護記録以外でICT化できるところがないか、検討
事故防止委員会	8	・離床コール、センサーベッドなどの管理(使用者、作動確認など) ・職員の事故防止に対する意識啓発、園内研修、記録紙の見直し ・園内研修の準備 ・マニュアルの見直し、修正 * 事故、ヒヤリハットの集計……毎月集計。結果を委員で回覧
褥瘡対策防止委員会	11	・褥瘡予防及び、発生時に向けた対策の検討 ・園内研修の準備 ・褥瘡予防のための、体位変更の確認、栄養状態の確認 ・褥瘡予防物品の整理整頓、管理(使用状況の把握など) ・褥瘡発症者、要注意者の状態把握、評価、予防に向けての取り組み
看取り委員会	9	・気づきシートの作成、使い方の検討、多点数者について検討 ・看取り期の付添い、面会、期間、ファイルの有無等について検討 ・看取りステージの判断(医師への上申時期等)
感染症委員会	8	・平常時の感染予防、感染予防基本動作の徹底、行動マニュアルのデモ ・マニュアルの見直し、修正 ・感染症流行期間の内外に対する注意喚起(張り紙、園内放送) ・園内研修の準備 ・ノロウイルス初期対応マニュアルの見直し、検討

年齢別状況

別表15

令和7年度

(歳)	男		女		計	
	前年度末	R7年度末	前年度末	R7年度末	前年度末	R7年度末
～64	2	2	0	0	2	2
65 ～ 69	0	0	0	0	0	0
70 ～ 74	5	3	1	2	6	5
75 ～ 79	4	6	7	5	11	11
80 ～ 84	1	5	12	12	13	17
85 ～ 89	3	2	13	16	16	18
90 ～ 94	1	2	14	17	15	19
95 ～ 99	1	0	3	4	4	4
100 ～	0	0	3	4	3	4
計	17	20	53	60	70	80
最低年齢	51	52	71	72		
最高年齢	95	91	103	104		
平均年齢	77.6	78.1	86.8	87.6	84.6	85.2

別表16

在園期間の状況

令和7年度

*年度末の在園数で計算

	男		女		計	
	R6年度	R7年度	R6年度	R7年度	R6年度	R7年度
1年未満	6 ^人	6 ^人	19 ^人	19 ^人	25 ^人	25 ^人
1年以上2年未満	7	5	17	13	24 ^人	18
2年以上3年未満	1	5	6	13	7 ^人	18
3年以上5年未満	2	1	6	9	8 ^人	10
5年以上10年未満	1	3	4	5	5 ^人	8
10年以上	0	0	1	1	1 ^人	1
計	17	20	53	60	70	80
平均在園期間	1年10か月	2年3か月	2年0か月	2年4か月	2年0か月	2年4か月

福祉の森→年齢別/利用期間の状況

日常生活動作の状況

令和7年度

				人数(人)
				(年度末人数:80人)
歩 行	可	独歩～補助器使用		3
		付添い		3
	不可	車 い す	自走可	15
			一部介助～全介助	34
			リクライニング全介助	25
移 乗	自立			4
	見守り ～ 一部介助			30
	全介助			46
食 事	自立			49
	見守り ～ 一部介助			12
	全介助			19
入 浴	個 浴	浴槽をまたぐ		4
		リフト使用		21
	特 浴			55
排 泄	トイレ (日中のみの 利用者含)		自分で可能	4
			介助(夜間オムツ含む)	22
	終日オムツ使用			54

令和 7 年度 デイサービス施設明寿香園事業報告書

令和 7 年度 デイサービス施設明寿香園事業報告書

令和 7 年度は、アクティビティ活動の充実と、行事、趣味活動等に力を入れ、楽しみを持って利用することで、他者との交流が図れるよう配慮した。また、ボランティアの受け入れを積極的に行い、外部との交流で楽しい時間を過ごしてもらった。

毎月、あすかだよりと行事カレンダーを発行し、利用者や居宅事業所等、関係機関への配布を行った。園での様子を知ってもらうツールとなっている。

業務改善については、月 1 回 ICT コンサルタントに入ってもらい、ICT 機器導入の検討や、業務の見直し、改善を行った。

設備については、4 月に照明を LED に交換し省エネに繋がった。また、浴室の修理やリフト浴の更新を行い、入浴支援を支障なく行うことができた。

重点目標の 1 点目「新規利用者の受け入れを積極的に行う」は、体験利用の希望者については、断ることなく受け入れを行い、ケアマネージャーや利用者家族との連携を図ることで、新規利用者の紹介へ繋がった。また、長寿園ショートステイ利用中に、デイサービスでの自費利用に参加をすることで、在宅生活と変わりなく過ごしてもらうことができ、デイサービス利用を継続できた。

2 点目「アクティビティ活動の充実を図る」については、クロスワードや間違い探し、毎月の行事カレンダーの作成や塗り絵等、事前準備を行い、利用者各自が選択することで、楽しんでもらうことができた。また、行事や趣味活動の実施やボランティア受け入れを行うことで、レク活動の充実を図り、追加利用する方もいた。

3 点目「人材の育成、職員の定着に努める」については、職員へ業務課題のアンケートや聞き取りを行い、職員会議等で改善内容を検討し実施していった。また、職員間で出勤の調整を行い、働きやすい環境を整えた。

1 施設の概要

名 称	デイサービス施設 明寿香園 通所介護(通常規模型)・総合支援事業(予防給付型) 定員 30 人 【通所介護】 入浴加算 個別機能訓練Ⅰ 2 加算 個別機能訓練Ⅱ 加算 サービス提供体制加算 介護職員処遇改善加算Ⅰ 科学的介護推進体制加算 【総合支援事業(予防給付型)】 運動機能向上加算 サービス提供体制加算 介護職員処遇改善加算Ⅰ 科学的介護推進体制加算
住 所	山陽小野田市大字小野田 11324 番地 10

事業開始	昭和 59 年 12 月 1 日
建 物	鉄筋コンクリート平屋建 508.2 m ² 食堂 訓練室 休養室 浴室（リフト浴・一般浴）

2 サービス提供体制（職員配置）

令和 7 年度末職員人数（人）

管理者	1（施設管理者等兼務）
生活相談員	2（介護職員兼務 1）
介護職員	
通所介護・予防給付型	6（相談員兼務 1） （機能訓練指導員・看護職員兼務 2）
看護職員	3（機能訓練指導員兼務 1、内パート 1） （機能訓練指導員・介護職員兼務 2）
機能訓練指導員	4（看護職員兼務 1、内パート 1） （看護職員・介護職員兼務 2）
	計 10（デイ専従 9、内パート 1）

3 サービスの実施状況

(1) 利用実績

開園は 304 日（前年度 305 日）となった。

利用述べ人数は、5,690 人（前年度 5,859 人）1 日平均 18.7 人（前年 19.2 人）、利用率は 62.3%（前年度 64.0%）となり、平均介護度は、1.63（前年度 1.76）であった。

新規利用者が 23 人（前年度 23 人）、利用中止者は 12 人（前年度 26 人）、実利用人数は、58 人（前年度 68 人）となった。

利用中止の理由は、入院 5 人、施設入所 1 人、死亡 2 人、他デイ事業所利用 2 人、自宅療養 2 人であった。

介護度別の実利用者割合

令和 7 年度末現在

事業 対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
8.6% (4.5)	5.2% (6.0)	3.4% (4.5)	48.3% (38.8)	24.1% (31.3)	3.4% (9.0)	6.9% (4.5)	0% (1.5)

※（ ）は前年度割合

別表 1 デイサービス利用状況

(2) サービス内容

① 通所介護計画について

居宅サービス計画書に沿って、アセスメントで得られた情報より課題抽出を行い、本人、家族が望む生活に向けての目標設定・計画作成に努めた。

また、利用者・家族への丁寧な説明に心掛けた。定期的に、目標達成状況の把握をし、再アセスメント、介護計画書の再作成を行った。必要時には、ケアマネージャーへ利用者の状況報告を行い、サービス内容や居宅サービス計画の見直しを働きかけた。

② 送迎について

利用者の心身状態や道路状況を配慮し、車種選択し、安全で円滑な送迎に努めた。

デイ所有の車両のみでの送迎が困難なため、他部署の車両を使用することが頻繁にあった。そのために、車両使用については、その都度調整を行った。

認知症等により、身支度が困難なケースも増え、起床の手伝い、着替えの支援、複数回の迎え、通常の送迎時間を遅らせる等の対応を行った。

地域別利用状況

令和 7 年度末現在（人）

本山	赤崎	須恵	小野田	高千帆	高泊	有帆	宇部	計
1	10	21	13	6	3	1	3	58

③ 健康状態の確認・管理

来園時と昼食後の 2 回、バイタル測定（血圧・脈・体温）と体調確認を行った。また、必要時に応じて、パルスオキシメーターにて、SPO2（経皮的動脈酸素飽和度）を測定している。利用中に、安静に過ごす時間を必要とする利用者が増え、ベッドが足りないことがあった。時間を決め交替する等、利用者に協力を得て対応した。

体調が不安定な利用者が増えたことや、服薬管理が出来ていない等により、家族・ケアマネージャー・主治医・薬剤師等に連絡するケースも多かった。

夏季は、脱水症状を起こさないように、小まめに水分摂取を促し、熱中症の注意喚起をした。訓練の前後、入浴後は、適宜水分補給に努めた。

風邪やインフルエンザ、コロナウイルス等の感染症対策として、マスクの着用や手洗いやうがいの励行に努め、体調不良時は、早めの受診を

すすめた。また、室内の換気等の予防対策の徹底を行い、空気清浄機を使用した。

④ 入浴について

利用者の健康状態を把握し、身体状態に合わせた介助方法と、設備を選択してサービス提供を行った。また、看護職と連携し、利用者の皮膚状態の確認を行い、必要に応じて受診を勧めた。

体調不良等により入浴が出来ない利用者については、部分浴（手指・足）・シャワー浴・陰部洗浄・清拭等の代替対応にて、身体の清潔保持に努めた。

座位保持・立位保持が困難な利用者には、リフト浴を使用し、安全に十分配慮して実施している。

主治医や訪問看護事業所の指示により、入浴後に処置を行うことが増えた。

⑤ 食事について

自立支援に配慮し、食事形態の選択と自助具を用意する等の対応を行った。介助にあたる際は、利用者の食事ペースに配慮し、声かけや雰囲気づくりにも努めた。

⑥ 排泄について

清潔な環境づくりのため、随時点検や掃除を行った。

介助においては、利用者の自尊心に配慮しながら、心身の状態に応じたケアに努めた。トイレでの排泄が出来るように、声かけ・トイレへの誘導方法や介助方法を検討し実施した。

ベッド上での排泄介助についてはパーテーションを使用し、プライバシーの保護に配慮して行った。

必要な利用者には、排尿・排便の有無・尿量・便の状態等を把握し、家族、他サービス事業所と連絡を密にし、排泄コントロールを行った。

⑦ 機能訓練について

機能訓練指導員を中心に、全職員で協力をし、3ヶ月毎に自宅訪問し、アセスメントを行った。機能訓練指導員が作成した「個別機能訓練計画書（運動器機能向上訓練計画書）」に沿って機能訓練の実施を行った。

機能訓練の実施は、目的別に少人数のグループで対応を行った。また、マンツーマン対応が必要な利用者については、個別に機能訓練に実施した。

評価については、3ヶ月毎に測定と他職種の意見を聞きながら、機能訓練指導員が行った。定期的に効果測定（10m歩行、握力、片足立ち、前屈等）を行うことにより、利用者の意欲向上に繋がった。

⑧ アクティビティ・行事について

毎日レク担当者が、計画的に利用者間の交流と脳の活性化を目的に、レクリエーションを実施した。

個別の活動については、脳トレやクロスワード、塗り絵等、意欲的に取り組む利用者が多かった。

行事活動については、4月お花見、7月七夕飾り、8月明寿香祭り、10月運動会、12月忘年会、2月節分の6回を実施した。実施日数に限りがあるため、利用日でない利用者には、振替利用や、アクティビティの時間を使って作品作り等、個別の対応で参加してもらった。多くの利用者に参加してもらうことができた。

趣味活動については、週1回程度、コーヒー療法や温泉の日、お菓子作りや物作りを行った。希望を募り、追加利用も受けた。楽しい時間を過ごしてもらうことができた。

別表 2-1 行事实施状況

別表 2-2 趣味活動実施状況

⑨ 口腔ケアについて

来園時に、うがいを行うことにより、口腔内の清潔と感染症予防に心掛けた。昼食前に、口腔体操を行い、口やその周辺の運動機能や、飲み込みの機能が改善できるように働きかけた。また、食後には、うがいや歯磨きを勧めるとともに、必要な利用者には、義歯洗浄等の介助を行うことで、口腔内の清潔保持に努めた。治療が必要な利用者には受診を勧め、治療に繋げた。

⑩ 認知症ケアについて

前年度に比べ、日常生活に支障をきたす症状がある利用者が多かった。毎日のミーティングや職員会議で情報共有に努め、支援を行った。

⑪ 家族介護者への支援について

連絡帳の活用、電話連絡、送迎時の家族との会話やコミュニケーションを密に行い、家族介護者の相談や助言を行った。特に、送迎時の家族介護者の健康状態に留意し、必要時にはケアマネージャーや関係機関に報告を行うことで、協働して家族支援ができるように努めた。

(3) 利用者の状況

別表 3-1 利用者歩行・移動の状況

別表 3-2 認知症利用者の状況

別表 3-3 年齢別利用者状況

4 広報活動について

あすかだよりと行事カレンダーを毎月発行し、利用者や居宅介護支援事業所に配布した。体験利用の方には、事前訪問時、あすかだよりと行事カレンダーを持参し、園の様子説明に活用した。写真付きで、園の様子を分かりやすく伝えることができた。

月に1回、経営会議を行い、現状の把握や実施事項等の確認を行った。また、新規開拓のため、居宅事業所へあすかだよりと行事カレンダーを持参し、営業活動を行った。

5 地域とのネットワークづくりについて

ボランティアの受け入れを積極的に行った。外部の方との交流で、楽しい時間を過ごすことができた。

実習生の受け入れについては、2件であった。

ショートステイ利用中の方を自費利用にて受け入れを行い、余暇時間の充実を図った。

別表4-1 実習生の受入状況

別表4-2 ボランティア受け入れ状況

別表4-3 ショートステイ利用者の自費利用状況

6 安全快適な環境づくりについて

通常の業務の中で、うがい・手洗い・消毒・換気等の、感染症予防対策を徹底した。

ゴキブリ・ムカデ駆除を、外部業者に依頼し実施した。

ヒヤリハットについては、ミーティングで検討し、職員の事故防止への意識を高め、再発防止に努めた。園内事故は0件、車両事故は1件、苦情は1件だった。

7 職員資質向上と人材育成について

外部研修は、9件参加した。内部研修については担当者を決め、講師を行うことで、各自のスキルアップに繋げた。

別表5 職員の研修状況

別表 1

令和7年度利用状況集計表(ゲイサービス)

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	構成比
定 員		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
開園日数		26	27	25	27	24	26	27	25	25	24	22	26	304	
延 人 数	介護 1	246	240	231	243	221	261	287	279	278	260	267	323	3,136	60.2%
	介護 2	105	136	108	109	114	125	136	124	132	118	123	119	1,449	27.8%
	介護 3	23	45	43	32	33	37	44	39	50	52	25	28	451	8.7%
	介護 4	8	8	9	16	10	9	8	10	10	8	33	40	169	3.2%
	介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計 (A)		382	429	391	400	378	432	475	452	470	438	448	510	5,205	100.0%
平均利用者数/日		14.6	15.8	15.6	14.8	15.7	16.6	17.5	18.0	18.8	18.2	20.3	19.6	17.1	
利 用 率 (%)		48.9	52.9	52.1	49.3	52.5	55.3	58.6	60.2	62.6	60.8	67.8	65.3	57.0	
介 護 給 付	個別機能訓練加算Ⅱ	28	30	27	27	28	29	31	33	34	32	32	36	367	7.1%
	個別機能訓練加算Ⅰ2	356	402	364	373	344	403	447	416	444	400	422	485	4,856	93.3%
	入浴介助加算Ⅰ	279	308	273	292	286	314	333	313	335	306	314	373	3,726	71.6%
	送迎減算	11	10	24	15	9	11	13	42	56	38	37	46	312	6.0%
	サービス提供体制加算Ⅰ	377	421	391	394	378	425	465	450	470	438	448	507	5,164	99.2%
実 人 数	処遇改善加算Ⅰ	29	31	28	28	30	30	32	34	35	34	33	37	381	7.3%
	科学的介護推進体制加算	29	31	28	28	30	30	32	34	35	34	33	37	381	7.3%
	介護 1	16	16	15	14	16	17	18	18	20	19	19	22	18	←平均
	介護 2	10	11	9	10	10	10	10	11	10	10	9	9	10	
	介護 3	2	3	3	2	2	2	3	3	4	4	3	3	3	
計	介護 4	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2	3	2	
	介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	29	31	28	28	30	30	32	34	35	34	33	37	32	実人数
														32	構成比
															1.63
平均介護度															
平均介護度															1.55
事業対象者		9	7	8	24	13	15	17	24	24	20	17	22	200	41.2%
延 人 数	要支援 1	9	9	9	9	8	9	9	8	9	7	4	4	94	19.4%
	要支援 2	12	18	16	18	14	18	17	15	17	16	13	17	191	39.4%
	計 (B)	30	34	33	51	35	42	43	47	50	43	34	43	485	100.0%
	平均利用者数/日	1.1	1.2	1.3	1.8	1.4	1.6	1.5	1.8	2.0	1.7	1.5	1.6	1.5	
	利 用 率 (%)	3.8	4.1	4.4	6.2	4.8	5.3	5.3	6.2	6.6	5.9	5.1	5.5	5.3	
総 合 事 業 (予 防 給 付 型)	サービス提供体制加算Ⅰ1	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	2	46	9.5%
	サービス提供体制加算Ⅰ2	2	2	2	4	3	3	3	4	4	4	4	4	39	8.0%
	処遇改善加算Ⅰ	7	6	6	8	7	7	7	8	8	8	7	6	85	17.5%
	科学的介護推進体制加算	7	6	6	8	7	7	7	8	8	8	7	6	85	17.5%
	事業対象者	2	2	2	4	3	3	3	4	4	4	4	3	3	←平均
実 人 数	要支援 1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	
	要支援 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	計	7	6	6	8	7	7	7	8	8	8	7	6	7	実人数
														7	
合計延人数(A)+(B)		412	463	424	451	413	474	518	499	520	481	482	553	5,690	
合計平均利用者数/日		15.8	17.1	16.9	16.7	17.2	18.2	19.1	19.9	20.8	20.0	21.9	21.2	18.7	
合計利用率 (%)		52.8	57.1	56.5	55.6	57.3	60.7	63.9	66.5	69.3	66.8	73.0	70.8	62.3	利用状況集計

行事実施状況

別表2-1
令和7年度
(人)

月	行事名	実施日数	場所	参加延べ人数	その他	実習生
4	お花見	5	デイルーム 明寿香園裏	37	2 (体験利用 ショート利用)	0
7	七夕飾り	5～7月	デイルーム	36	0	0
8	明寿香祭り	2	デイルーム	35	4 (ショート利用)	2
10	運動会	2	デイルーム	44	2	0
12	忘年会	2	デイルーム	47	3 (ショート利用)	0
R8/2	節分	2	デイルーム	38	3 (ショート利用)	0

趣味活動実施状況

別表2-2
令和7年度

月	活動内容					参加人数
	コーヒー療法(人数)	温泉の日(人数)	お菓子作り(人数)	物作り(人数)	お楽しみ会(人数)	
4	ブレンド(19)	金木犀(20)				39
5	モカブレンド(22)	バニラフローラル(20)				42
6	ブルーマウンテン(23)	アジアシトラス(25)	紫陽花ゼリー(20)			68
7	オリジナルブレンド(23)	ラベンダー(21)			七夕会(28)	72
8		ゆず(21)		風鈴作り(22)		43
9	キリマンジャロ(23)	ラベンダー(19)		お花作り(18)		60
10	ブレンド(23)	森(27)		フォトフレーム作り(22)		72
11	ロイヤルブレンド(21)	薬湯(23)	パフェ(27)			71
12		琥珀の湯(19)		フラワーアレンジメント(24)	クリスマス会(30)	73
R8.1		ゆずはちみつ(21)		干支置物(20)	新年会(25)	66
R8.2		森林(25)	バレンタイン(23)		おやつの日(23.24)	95
R8.3		ミモザ(26)			おやつの日(26.24) ひなまつり会(24)	100

利用者歩行・移動の状況

別表3-1

(人)

自助具種類	令和7年度		令和6年度	
	自立	介助	自立	介助
なし	20	1	16	5
杖	5	5	4	9
歩行器	6	17	7	18
車椅子	0	4	1	8
計	31	27	28	40
合計	58		68	

認知症利用者の状況

別表3-2

(人)

ランク		7年度	6年度
自立	認知症なし	13	16
I	認知症はあるがほぼ自立	17	14
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動・意思疎通の困難さが多少あり誰かの注意が必要とする	19	22
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動・意思疎通の困難さが時々あり介助を必要とする	6	11
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動・意思疎通の困難さが頻繁にあり介助を必要とする	2	3
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ専門医療が必要である	1	2
合 計		58	68

年齢別利用者状況

別表3-3

(人)

年齢別区分	男性		女性		計	
	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
～69	0	0	0	0	0	0
70～74	0	0	0	1	0	1
75～79	3	1	4	9	7	10
80～84	1	3	12	11	13	14
85～89	3	5	16	10	19	15
90～94	1	1	13	18	14	19
95～99	0	1	3	5	3	6
100～	0	0	2	3	2	3
計	8	11	50	57	58	68
平均年齢	82.8	84.6	87.4	87.4	86.8	87.0
最高年齢	91	98	104	103	104	103

実習生の受入状況

別表4-1

令和7年度

月	実習生	実習内容	人数(人)	日数(日)
7	山口県立大学	介護等体験	1	5
8	山口東京理科大学 工学部数理情報科学科	介護等体験	1	5
			2	10

ボランティア受入状況

別表4-2

令和7年度

月	来園者	活動内容	人数(人)	日数(日)
4	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	TEME ROUGE	ジュエリーボトル	2	1
5	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	atelier hana milk	フラワーアレンジメント	1	1
	TEME ROUGE	きらきらドーム	2	1
6	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	TEME ROUGE	アクリルキーホルダー	0 (職員で対応)	1
7	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
8	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	しずくバルーン	バルーンアート	1	1
9	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
10	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	有帆 ご夫婦	レコードコンサート	2	1
11	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
12	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
	atelier hana milk	フラワーアレンジメント	1	1
2	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
3	秀芳流 吟詠会	詩吟	2	1
			31	18

ショートステイ利用者の自費利用状況

別表4-3

令和7年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4名(57回)	5名(67回)	4名(42回)	6名(57回)	3名(30回)	4名(27回)	5名(34回)	3名(35回)	5名(35回)	5名(33回)	4名(39回)	5名(44名)

職員の研修状況

別表5

令和7年度
(人)

(外部)

研 修 会 名	期 間	場 所	参加者
科学的介護情報システム(LIFE)研修会	令和7年5月5日	明寿香園事務室 (動画配信)	主任生活 相談員 1
令和7年度総会(第1回)・総会時研修会Ⅰ (オンライン開催)	令和7年6月24日	長寿園相談室 (オンライン配信)	主任生活 相談員 1
山口県老人福祉施設相互研修会	令和7年6月28日	Ymfg維新 セミナーパーク	主任生活 相談員 事務員 2
デイサービス事業所職員同士の 情報・意見交換会	令和7年9月12日	KDDI維新ホール	主任生活 相談員 1
いよいよ2025年！地域包括ケアシステムに 目途はたったのか！？	令和7年10月17日	明寿香園事務所 (ZOOM研修)	主任生活 相談員 1
あのデイサービスには、なぜ人が集まるのか ～必要な事業所だけ生き残る “大淘汰時代”に求められる経営とは～	令和7年11月21日	長寿園相談室 (ZOOM研修)	主任生活 相談員 1
デイサービスの経営改善と生き残り戦略	令和7年12月22日	明寿香園事務室 (オンライン配信)	主任生活 相談員 1
社会福祉法人の連携による「地域公益活動」研修会	令和8年3月16日	Aスクエア	園長 主任生活 相談員 2
自分を導き、仲間を育てる！現場で生きるリーダー の力～一人ひとりが輝く組織をつくるために～	令和8年3月26日	明寿香園事務室 (動画配信)	主任生活 相談員 1

(内部)

(人)

研修内容	期 間	場 所	参加者
倫理及び法令遵守	令和7年4月16日	明寿香園 食堂	9
マナー及び接遇	令和7年5月22日	明寿香園 食堂	9
入浴介助	令和7年6月26日	明寿香園 食堂	9
非常災害時の対応	令和7年7月24日	明寿香園 食堂	9
事故及び再発防止	令和7年9月25日	明寿香園 食堂	9
認知症及び認知症ケア	令和7年9月25日	明寿香園 食堂	9
感染症及び食中毒の予防蔓延防止	令和7年10月 18・21日	明寿香園 食堂	9
介護予防及び要介護度進行予防	令和7年11月 19・20日	明寿香園 食堂	9
プライバシーの保護	令和7年12月 23・24日	明寿香園 食堂	9
介護技術向上	令和8年1月 19・31日	明寿香園 食堂	9
身体拘束の排除	令和8年2月 14・24日	明寿香園 食堂	9
高齢者虐待防止	令和8年3月 18・19・20日	明寿香園 食堂	9

令和 7 年度 長寿園居宅介護支援事業報告書

令和 7 年度 長寿園居宅介護支援事業報告書

令和 7 年度の重点目標について

- ・計画的に研修に参加し、介護支援専門員として常に質の向上を図る。

研修や会議に積極的に参加し、自己研鑽に励んだ。令和 7 年度は新たに 1 名が主任介護支援専門員を取得し、より質の高いサービスの提供を行うことができた。

事業所内で困難対応ケースの事例報告を行い、必要時は地域包括支援センターの協力も得ながら、公正中立に対応を行った。また新規ケースについての情報の共有を行い、連携対応に努めた

- ・利用者や家族の思いに寄り添い、人生の最終段階の伴走者として、身近で相談しやすい存在となれるよう努める。

利用者が住み慣れた自宅で能力を活かしながら安心・安全に暮らせるよう、意向を反映した計画を作成し支援した。24 時間連絡体制で、利用者や家族からの相談に迅速に対応するよう努めた。

- ・業務の効率化を図り、新規利用者の獲得を積極的に行う。

スマホを導入し利用者や事業所との連携、情報共有を正確かつ迅速に行うことができた。業務効率化について事業所内で意見交換し、書類作成や情報共有にかかる時間を軽減する等できることから実施している。それによって新規利用者の積極的な獲得に繋がった。

また地域包括支援センターからは、介護予防プランの受託を積極的に行った。特定事業所加算については、義務付けられた要件をクリアしながら継続して算定している。要件の 1 つとして介護支援専門員実務研修実習生を受け入れ、人材育成への協力を行う体制を整えている。令和 7 年度は 1 名の受け入れを行った。

1 事業所の概要

名 称	長寿園居宅介護支援事業所
住 所	山陽小野田市大字小野田 11324 番地 10
事業開始日	平成 12 年 4 月 1 日

2 サービス提供体制

居宅管理者	1 人（主任介護支援専門員兼務）
主任介護支援専門員	1 人
介護支援専門員	2 人

3 サービスの実施状況

(件)

	令和 7 年度			令和 6 年度		
居宅サービス計画作成件数	1522	居宅	1235	1361	居宅	1103
		予防	287		予防	258
認定調査件数	0			1		

居宅サービス計画の作成件数は、前年度より 132 件増加している。月平均件数では、103 件となっており、当事業所が目標に挙げた担当件数（月平均：95 件）をクリアしている。

介護予防サービス計画の作成は前年度より 29 件増加し、月平均件数は 24 件であった。目標に挙げた担当件数（月平均：18 件）をクリアすることができた。

R7 年度の新規利用者は 53 名で、依頼先の内訳は家族 19 名、包括 25 名、病院 8 名、他事業所 1 名であった。終了は 29 名となっている。今後も各ケアマネの業務の実情等を配慮しながら、積極的に受け入れを行っていく。

認定調査については基本的に市の調査員が実施する為行っていない。

別表 1 居宅サービス計画・介護予防サービス計画作成実績表

4 会議等への出席

地域ケア個別会議（ZOOM）	2 回
地域ケア会議・事例検討会	3 回
気づきの事例検討会	6 回
ケアマネジャー連絡会議	12 回
地域包括支援センター運営協議会	2 回
障害福祉計画検討委員会	1 回
主任介護支援専門員連絡会	4 回
主任介護支援専門員連絡会（事前打合せ）	4 回

5 事業所内会議の開催

定期会議（サブセンター参加）	12 回
定期会議	36 回

6 研修会参加状況

研 修 名	年月日	場 所	参加者
地域緩和ケア勉強会	R7年5月23日	ZOOM	1人
在宅医療・介護連携推進研修会	R7年7月24日 R7年10月16日	ZOOM 不二輪送機ホール	4人
主任介護支援専門員スーパービジョン研修	R7年6月24日 R7年7月15日	山陽小野田市役所	1人
長寿社会開発センター研究セミナー	R7年6月～7月	動画視聴	2名
介護支援専門員更新研修(I)	R7年7月～9月	YM f g 維新セミナーパーク	3人
資質向上研修会	R7年8月27日	A スクエア	2名
主任介護支援専門員要件研修	R7年9月10日 R7年10月3日 R7年10月10日	動画視聴	1人
主任介護支援専門員研修	R7年10月～2月	YM f g 維新セミナーパーク	1人
感染症予防対策委員会園内研修	R7年9月18日	長寿園	4人
見守り声かけ訓練	R7年12月6日	小野田地域交流センター	1人
山口県ケアマネジメント研究大会	R7年2月13日	YM f g 維新セミナーパーク	1人
山陽小野田市介護支援専門員連絡協議会研修会	R7年3月19日	A スクエア	2人

7 実習受け入れ

実習名	日にち	人数
山口県介護支援専門員実務研修実習	R8年2月4日～2月24日	1人

別表 1

令和7年度 居宅介護計画書作成実績

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	比率
	作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数		作成件数			
	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅	当月	月遅		
介護 1	48	1	55	2	53		54	2	55	1	58	1	59		62	1	65	1	67	1	63	1	67		717	58.1%
介護 2	22		24		24	1	24		23		23		26	1	25		25	1	23		22		18		282	22.8%
介護 3	8		8		8		7		7		7		9		10	1	12	1	11	2	12		12		115	9.3%
介護 4	9	1	9	1	9		8		8		8		10		8		8		8		8		8		103	8.3%
介護 5	1		1		1		1		2	1	2		1		1		1		2		2		2		18	1.5%
小 計(A)	88	2	97	3	95	1	94	2	95	2	98	1	105	1	106	2	111	3	111	3	107	1	107	0	1,235	月平均 103
	90		100		96		96		97		99		106		108		114		114		108		107			
支援 1	4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		5		5		50	17.4%
支援 2	20		19		19		19		20	1	20		20		19		18		17		17		16		225	78.4%
事業対象者	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		12	4.2%
予防介護	25	0	24	0	24	0	24	0	25	1	25	0	25	0	24	0	23	0	22	0	23	0	22	0	287	月平均 24
小 計(B)	25		24		24		24		26		25		25		24		23		22		23		22			
合計(A+B)	115		124		120		120		123		124		131		132		137		136		131		129		1,522	127

令和 7 年度在宅介護支援センター事業報告

R7 年度 おのだ在宅介護支援センター事業報告
(山陽小野田市地域包括支援センター サブセンター)

おのだ在宅介護支援センターは、山陽小野田市地域包括サブセンターとして、須恵校区・小野田校区を担当し、市の事業計画に沿って業務を行った。

担当区域内のサービス利用者と、サービス利用終了者、過去に相談があった高齢者を訪問し、生活状況や意向を把握し、介護予防に向けた生活支援を行った。また、必要な方に介護保険申請、総合事業対象者認定申請、住宅改修費の支給、安心ナースホンの貸出等の手続きや、サービス調整を行った。下半期以降は、サブセンター廃止に向けての引継ぎ業務等を行った。

重点目標である「地域包括支援センターの役割を把握し、在宅高齢者の支援に繋げる」「社会資源と制度を理解し、関係機関との連携に努める」は、各種会議や研修会に参加し、自己研鑽に努めた。また、各機関との情報共有と連携を図り、業務遂行に努めた。

1 施設の概要

名称	おのだ在宅介護支援センター
住所	山陽小野田市大字小野田 11324 番地10
事業開始日	平成 3 年 1 月 1 日 サブセンター委託事業開始 18 年 4 月 1 日
建物	鉄筋コンクリート造平屋 8.68 m ² 相談室1
事務室	特別養護老人ホーム長寿園内 在宅支援室

2 サービス提供体制(職員配置)

センター長(長寿園園長兼務) 介護支援専門員 1 人(山陽小野田市地域包括支援センター在籍出向職員)

3 サービスの実施状況

(1)介護予防支援・日常生活支援総合事業

① 介護予防支援事業 要支援1・2 事業対象者

R7 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	実人 数
プラン作 成件数	3	3	8	6	3	0	7	4	8	8	0	6	56	76
給付管理 件数	63	60	60	60	58	58	60	60	58	55	53	55	700	
									R6 年度	プラン 作成件数		51	78	
										給付 管理件数		658		

R7 年度に担当した介護予防支援事業給付件数は、700 件で、月平均 58.3 件(前年度 54.8 件)であった。

サービス利用した実人数は、76 人(前年 78 人)であり、介護予防サービス支援計画書作成件数は 56 件(前年 51 件)となった。

新規担当した人数は11人、担当終了した人数あり18人。終了理由は、介護給付にて担当変更 10 人、サービス終了3人、施設入所 1 人、死亡 4 人であった。

利用したサービス内容別は、通所介護 57 人、福祉用具貸与 30 人、訪問看護 3 人、訪問介護 2 人、通所リハ 2 人、訪問リハ 1 人、短期入所 1 人であった。複数サービスを合わせた利用した人数は、18 人であった。

調整で関わったサービス事業所は、通所介護12カ所、訪問介護 2 カ所、訪問リハビリ 2 カ所、福祉用具貸与 6 カ所、訪問リハ 1 カ所、訪問看護 3 カ所、短期入所 2 カ所であった。

② 一般介護予防事業

地域で継続して介護予防が取り組める「住民運営通いの場」への支援では、感染症予防対策の情報提供、介護予防資料の配付や、百歳体操の指導等で年 3 回訪問を行った。

(2) 包括的な支援事業

① 総合相談支援事業

病院から退院する患者の生活支援相談や、認知症高齢者の親族からのサービス利用に関する相談の対応を行った。また、民生委員の情報提供を受け、生

活状況を確認するために訪問し、適切なサービスや機関へ繋いだ。

実態把握の件数

R7 年度	1 期	2 期	3 期	4 期	合計
実態把握件数	134	123	112	82	441
				R6 年度	424

② 権利擁護業務

認知症等により、金銭管理、生活上の手続きやサービスの選択等が困難な高齢者へ、地域包括支援センターや他関係機関と連携を取り、在宅生活が支障なく継続できるように支援を行った。

4 会議等の出席

地域包括支援センター連絡会	12 回
地域ケア会議事例検討会	3 回
山陽小野田市民生児童員会（第 2 区）	6 回
頭の健康チェック	1 回
R7 年度 小野田校区見守り声かけ訓練 1 回	
長寿園居宅会議	12 回

5 研修の状況

【内部研修】

居宅会議事例検討	6 回
感染症研修	1 回
非常災害対策研修	1 回

【市包括研修】

地域包括支援センタースーパービジョン研修	4 回
----------------------	-----

【外部研修】

地域に開く連携カフェ(山口労災病院)	10/28
ケアマネジャー資質向上研修	8/27
在宅医療・介護推進研修	7/24 10/16
気づきの事例検討会	10/14 2/10
R7 年長寿社会開発センター研究セミナー(オンデマンド)	4 回